

大会運営規程

1. 大会運営

本大会の運営は、(公社)日本ホッケー協会 2026 年度版 6 人制ホッケー競技規則、競技運営規程、レギュレーション、大会運営規程、TD 通達及び有効な通達事項に則り行われる。

2. 競技規則

(公社)日本ホッケー協会 2026 年度 6 人制ホッケー競技規則による。

3. 競技時間（熱中症対策として、下記のように試合時間を 4 クォーター制とする）

- (1) 試合時間は、7 分間の 4 Q 制（ノンストップ方式）で行う。
- (2) 第 1・第 3 Q の後に 1 分間のインターバル、ハーフタイムに 5 分間の休憩を設ける。

1 Q	インターバル	2 Q	ハーフタイム	3 Q	インターバル	4 Q
7 分間	1 分間	7 分間	5 分間	7 分間	1 分間	7 分間

- (3) 試合は原則としてオンタイムで開始する。各チームは円滑な大会運営に協力すること。

4. 時 計

試合時間は、テクニカルテーブルで管理する。

5. 競技方法

- (1) 男女とも、3 チームによる総当たりの予選リーグを行い、各リーグ上位各 2 チームが決勝トーナメントに進出する。
- (2) 決勝トーナメントにおいて規定の試合時間内に勝敗を決しないときは、試合終了後直ちに「7.」に定めるシュートアウト戦（以下「SO 戦」という。）を行い、勝敗を決する。

6. 予選リーグの順位決定方法

- (1) 勝ち点の多いチームを上位とする。勝ち点は、勝利したチームに 3 点、引き分けたチームに 1 点をそれぞれ与え、敗戦したチームは 0 点とする。
- (2) 勝ち点が同点の場合は、次の順序により順位を決定する。
 - ①リーグ戦における「得失点差」（「総得点数－総失点数」の差）が大きいチーム。
 - ②リーグ戦における「総得点数」の多いチーム。
 - ③前各号によっても順位が決定しない場合は、「7.」に定める SO 戦により順位を決定する。なお、同順位チームが 3 チームの場合は、同一チームが連勝したとき（試合順序は競技運営規程付則書 2.1.9 参照）、当該チームを 1 位とする。
 - ④順位決定 SO 戦の実施は必要となった場合は、当該チームに通告のうえ、速やかに実施する。

7. シュートアウト戦（SO 戦）

※詳細については 2026 年度競技規則及び 2026 年度競技運営規程参照

- (1) 両チームの監督は、レッドカードによる退場処分を受けているプレイヤーを除いた、公式試合記録に記載されたプレイヤーの中から3名のプレイヤーと1名のゴールキーパーを指名する。
- (2) 両チームの主将によるトスにより先攻・後攻を決める。その後、両チーム3名ずつのプレイヤーにより交互に攻防を1巡行い（計6回）、得点の多いチームを勝者とする。なお、勝敗が決した時点で終了する。
- (3) (2)の方法によって勝敗が決しないときは、同じプレイヤーにより両チーム3回のシュートアウトを行う第2シリーズを実施する。両チームが同数の攻防を行った時、どちらかのチームがゴール数を上回っていた場合はそのチームを勝者としSO戦は終了する。プレイヤーはプレイ不可能な者を除き、各チーム同一のプレイヤーにより先攻・後攻を入れ替えてSO戦を行う。ただし、攻撃を行う順番は変えても良い。
- (4) 第2シリーズ終了時点でもゴール数が同じであった場合、先攻と後攻を入れ替え、同じプレイヤーによる両チーム3回の新たなシリーズを行う。攻撃を行う順番は前のシリーズと同じでなくてよい。
- (5) (4)に定める新たなシリーズ終了時点でもゴール数が同じであった場合は、更に新たなシリーズを繰り返す。その際シリーズ毎に先攻と後攻を入れ替える。
- (6) SO戦においてPSになった場合は、当該SO実施プレイヤーに限らずレッドカードで退場処分を受けているプレイヤーを除き、公式試合記録に記載されたプレイヤーがPSを実施することができる。

8. 試合の中断と再開

天候などやむを得ない事由により、TDの判断で試合が中断された場合は、次により試合を再開する。

- (1) 中断した時の得点で、残り時間のみ試合を行う。
- (2) 期日・競技場・アンパイア等は、同一とは限らない。

9. チームベンチ

1チームの編成は、監督1名、コーチ1名以内、医療スタッフまたは手当者（ドクター、フィジオ等）2名以内、プレイヤー12名以内とする。

※プレイヤーは1～99の番号をユニフォームの定められた場所に明示する。

※同一種別における複数チームの監督の兼任及び同一校又は同一クラブの男子チームと女子チームの監督の兼任は認めない。同一チームにおける監督とコーチの兼任は認める。ただし、男女それぞれのチームでJHAのチームスタッフ登録を済ませていること。なお、監督については教員または部活動指導員であること。

※クラブチームにおいては、監督又はコーチのいずれかが指導者資格を有し、指導者資格を有する者がベンチ入りすること。(JSP0：日本スポーツ協会公認スポーツ指導者 コーチ2以上)

※手当者は大会開始日に20歳以上の者でJHAチームスタッフ登録を済ませること。

※チームベンチには、参加申込書に記載された者以外は入ることができない。(ただし、学校長、チーム代表者、ベンチ入りできない3年生等、TDの許可を受けた者はこの限りではない。なお、この取扱いについては監督会議で確認する。)

10. フィールドへの立ち入り

試合中、プレイヤーにケガ等が起こった場合は、ベンチ内にいる医療スタッフ1名及び監督又はコーチ*1名が、当該アンパイアの許可を得てフィールド内に入り、手当てを行うことができる。(ただし、その際にコーチングを行ってはいけない。)

*：中学生を指導している実情を考慮し、負傷時等の対応のため、コーチのフィールドへの立ち入りを特例として認める。

11. プレイヤーの交代

- (1) 各チームは、試合中随時どのプレイヤーでも交代することができる。その際ビブス等（ユニフォームと異なる色）を使用して交代することとする。ただし、P Cが与えられている間は、誰も交代できない。(負傷した守備側のG Kは除く)
- (2) 一時退場（グリーンカード：1分、イエローカード：2分以上）中のプレイヤーに対する交代は、当該プレイヤーの退場時間中は認められない。
- (3) プレイヤーの交代は、センターライン付近で行われる。その際、時間の停止は行わない。ただし、G K及び負傷者の交代については、アンパイアの管理下で行う。

12. ルール確認 ※2026年4月以降の競技運営規程改定のみ記載

- (1) コート内に許された人数より多く（7名以上）のプレイヤーがフィールド上にいた場合、その状況を修正するために時間を停止しなければならない。そのことが、不注意によって起こったことで、試合に大した影響もなくほんのわずかな時間であったならば、必ずしも警告を与える必要はないが、試合に大きく影響を及ぼした場合、チームのキャプテンにイエローカードが与えられる。
- (2) P Cが与えられたとき、すべての守備側プレイヤーは、顔面または頭部全体を保護するフェイスマスクを着用し、P Cの完遂（ホッケー競技 規則 13.5）または最初のシュートが行われるまで外してはならない。P Cの完遂または最初のシュートが行われる前に外した場合は、再びP Cが与えられる。
- (3) P Cが与えられたとき、攻撃側プレイヤーによる遅延行為の場合、アンパイアは当該プレイヤーに個人的罰則を科す（グリーンカード）。同じプレイヤーのたび重なる遅延行為には更に重い個人的罰則を科す（イエローカード）。
- (4) ボールが、フィールド上のアンパイア、フィールドに入ってはいけない人、その接触によって一方のチームに有利な状況が生じない限り、プレイは続行される。その接触によって一方のチームに有利な状況が生じた場合は、アンパイアは時間を停止し試合を再開するためにブリーが行われる。
- (5) 守備側プレイヤーがP C用の防具を取り外す適切な機会が無かった場合、センターラインより自陣のエリア内にいる間、ペナルティ無しで防具を着用し続けることができる。すべてのプレイヤーは、センターラインより自陣のエリアから出る前、またはアンパイアから指示されたときに、すべての防具を外さなければならない。ボールが攻撃側プレイヤーによりバックライン又はサイドラインから出された場合、およびセンターラインより自陣のエリア内で守備側にフリーヒットが与えられた場合、防具を着用している状態の守備側プレイヤーは、直ちにボールをパスすることができる。但しセルフパスは認められない。

ー P C の後で、守備側プレイヤーが不要になったハンドプロテクター、ニーパッド、フェイスマスク等を投げ、それが相手プレイヤー、アンパイア、またはフィールド外の他の人物に当たった場合、危険かつ過失のある行為とみなされる。このような場合、通常の姿勢で膝または膝より上に当たった場合は、アンパイアは時間を停止し、その選手に対してイエローカードが与えられなければならない。プレイの再開は、ボールがサークルの外にあった場合、ボールがあった場所で相手チームにフリーヒットを与えてプレイが再開される。ボールがサークル内にある場合、P C からプレイを再開する。

- (6) その他については、(公社)日本ホッケー協会 2026 年度版 6 人制ホッケー競技規則、競技運営規程、大会運営規程、T D 通達及び有効な通達事項を各チームで十分確認しておくこと。

1 3. 確認事項

- (1) 今大会では、チームは事前にシステムの「会員証 一括印刷」より顔写真入りの会員証を印刷し、選手各自がネックホルダーに吊り下げて提示する。(カラーまたは、白黒印刷は問わない。)
- (2) スティックチェックは初戦のみ実施する。チェック後のスティックにはシールを貼る。
- (3) 今大会では、「スターティングリスト」の提出は行わない。試合開始 1 5 分前にチームは、ベンチで待機するとともに、監督がスターティングメンバー 6 名を担当競技役員に申告する。ベンチでは、競技役員により選手確認、リングパス、服装・装具の点検を行う。
- (4) ユニフォームは必ず 2 着 (色は反対色になるもの) を用意し、試合会場 (ベンチ) に持参すること。
- (5) プレイヤーはすね当てを必ず着用し、ストッキングを上まであげて履き、膝は隠さないこと。また、マウスガードは必ず着用すること。ただし、特別な理由があつて装着できない場合は、「未装着届」(別途送付) を必ず提出すること。
- (6) キャプテンは、上腕又はストッキングのいずれかにキャプテンマークをつけること。
- (7) G K は、ケガの防止のため装具を完全に着用すること。また、アンダーパッドは必ず使用すること。(チームの責任で遵守すること)
- (8) チームベンチは、[競技日程表] 左側のチームがテクニカルテーブルからコートを見渡せる方向を見て左側のベンチとする。
- (9) P C で使用する保護具は、試合開始前、担当 T O が確認する。
- (10) 応援者は、大会本部の指示に従うこと。(保護者など応援者からの抗議等には一切応じない。監督は、保護者による抗議等はできない旨を事前に説明しておくこと。)
- (11) 試合中、乱暴なプレイやアンパイアに対する誹謗等、スポーツマンシップに反する行為は、厳に戒める。

※参加者 (チーム、競技役員、大会関係者) は、(公社)日本ホッケー協会が定める諸規程を熟知し、その内容に同意の上、「行動規範確認書」を提出したものとみなす。違反した場合には、懲戒処分を受ける可能性があり、参加者は自身の言動について責任を負うものとする。

- (12) プレイヤーが負傷により出血したときや、頭・顔面・胸部 (心臓付近) にボールが当たったときは、本人又はチームの意向にかかわらず、安全確認のため直ちに退場すること。止血処理と傷の手当てが完了するまでは再出場できない (試合時間で 1 分間以上の安静を取る)。なお、ユニフォームに血液が付着した場合は、交換又は洗浄しなければ再出場はできない

- (13) 試合開始時、プレイヤーが4人未満の場合、試合は開始できず、また続行もできない。試合中の負傷や一時退場で4人未満となった場合、試合は続行される。ただし、GKは必ず配置しなければならない。また、大会登録時にプレイヤーが6名未満の場合は、大会に参加することはできない。なお、棄権又は試合中に退場・怪我等により、1チームの人数が3名以下になった場合は、その試合は没収試合とする。
- ・予選リーグにおいて没収試合があった場合は、そのチームの試合をすべて没収し、相手チームの不戦勝とする。なお、その試合のスコアは5-0とする。
 - ・決勝トーナメントにおいて没収試合があった場合は、相手チームの不戦勝とする。
- (14) 「負傷・事故報告書」の提出を課せられた者は、医師による治療後、負傷・事故報告書をTO又はTDに提出する。本人への健康確認のうえ、次試合の出場を認める。試合が無い場合は、負傷・事故報告書の原本を大会事務局に郵送するか、PDF ファイルにしてデータを大会事務局に送付すること。
- (15) 今大会において、抗議制度はない。
- (16) 試合終了後、両チームの監督は、テクニカルテーブルで公式試合記録に署名すること。
- (17) その他、本大会競技運営規程に定めのない事項又は不測の事態が発生した場合は、TDの指示に従うこと。
- (18) PCが与えられたとき、試合時間は停止されない。また、準備のために40秒間の計測はしないが、守備側プレイヤーのフェイスマスク、保護用グローブ、膝当て等の着用は速やかに行うこと。
- (19) 個人罰則について、グリーンカードは競技時間中に1分間の退場、イエローカードは競技時間中に2分以上の退場処分が科せられる。退場時間の長さはカードを提示したアンパイアからTOに伝えられる。退場時間の管理はTOが行う。カードが複数枚出された場合は、退場時間が加算される。
- (20) メーカー識別標章（マニファクチャールロゴ）については、JHAユニフォーム規程に示された内容を原則とする。現在使用しているユニフォームについては、義務教育下であることを考慮し、監督会議にてTDの判断により対応を指示する。ただし、これから新しいユニフォームを作成する場合は、ユニフォーム規程に準じたものを作成すること。
- (21) 熱中症対策については、「ホッケー競技における熱中症対策ガイドライン」に基づき、大会実行委員会及び（公社）日本ホッケー協会 U15 カテゴリー部会と協議の上、TDが対策を決定する。

以上